

「次期行政経営方針の策定について」に係る 県政経営幹事会議（4月22日）での主な意見

- ・ 「失敗をおそれず」とか「安心してチャレンジできる」という記載があるが、どのような趣旨か？「失敗」という言葉は後ろ向きに捉えられるのでは？
→ 「まずはチャレンジしてみよう」と、前向きに挑戦する組織風土づくりを目指すものである。具体的には、上司と部下が議論できる職場づくりや、新たなチャレンジができるだけの余裕確保、そのための職員配置に取り組んでいくことになる。
- ・ 7ページ、経営理念に「対話と共感、共創で築く」とあるが、現行方針の「協働で築く」と変えた趣旨は何か。共創の定義はあるのか。
→ 2月定例会議の知事提案説明と整合を図ったものであり、よりよき自治の追求をするため、県政を県民と共に創っていく姿勢を示した言葉である。
- ・ 何度か出てくる「過大な業務量」という言葉は、すぐに定員を増やすことの議論に向かってしまうのでは。まずは効率化が必要という方向を打ち出すべき。
- ・ 9ページ、「無駄を排除」という言葉は、これを読んだ職員からは自分の仕事を否定されたように受け止められるのではないかと懸念している。
- ・ 過去の経験上、業務の見直しを進めるときに、これまでの取組を否定された職員が感じてしまうと、うまくいかないで、前向きな言葉を使ってほしい。
→ 効率化を進めること、改善していくという方針を記載したものであり、今の仕事を否定するものではないが、職員の理解が得られるよう検討したい。
- ・ 12ページに、「人間であろう」と記載があるが、注釈がないと分からないのではないか。
- ・ 一方で注釈が多すぎると職員が理解しづらくなる。新たな行経方針は、職員にとってわかりやすい言葉を使う方がよいのではないか。
→ 検討したい。
- ・ 昨年度の庁議において、組織のあり方の話として、例えば入札やPFIなど専門的な業務を集約した所管課づくりの指摘があったが、骨子案にはその記載はないのか。
→ 専門的な業務の集約については、必要性は理解している。DXの推進という観点もあわせて、引き続き検討してまいりたい。